神奈川県の教育の 取組み を紹介します

小学校

町の「すてき」を子どもたちといっしょに発見

「まちたんけん」をとおして、地域への愛着を深める子どもたち

小学校では、1･2年生での生活科を中心に、幼児期の遊びをとおした学びから、中・高学年の発展的な学びへのスムーズな接続を意識しながら学習を進めています。身近な人々や社会、自然と直接関わる体験を重視し、子どもたちが自分の思いや願いを生かし、主体的に活動することをとおして、「自立し、生活を豊かにしようとすること」をめざしています。「まちたんけん」の学習では、地域の様々な場所に実際に出かけ、五感を働かせながら、見たり、聞いたり、触ったりして、地域の「もの」や「ひと」や「こと」に関わっていきます。例えば、海との関わりが深い地域では、自分が見つけた海の生きものの「すごい、びっくり、いいな」をクラスで紹介し合い交流することで、一人では気付くことのできなかった、新たな地域のよさに気付いていきます。こういった「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた学習から、子どもたちは地域への親しみや愛着を深めていきます。各学校の教員は、県立総合教育センターの研修等をとおし、日頃からよりよい授業の実践について学びながら、子どもたちに向き合っています。

中学校

ICTを活用した新しい学び

中学校では、子どもたちの資質・能力を一層確実に育成するために、教育 ICT 環境を実現する GIGA スクール構想により、1人1台端末の整備が進み、端末を有効に活用した授業が行われます。生徒が自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易になり、個々の理解や関心の程度に応じた学びを進めることが可能になっています。また、ICTを活用して生徒の意見を共有することで、発表や話し合い、議論なども活発に行われ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学びが展開されています。各学校の教員は、校内研究会などで日々の授業実践を共有し、子どもの学び・資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するための授業改善に取り組んでいます。神奈川県は、GIGAスクール運営支援センターを設置しており、各学校への支援体制も充実させていきます。県立総合教育センターでは、生徒の実態に応じた授業を実践するための基本的な ICTの技能を身に付けるために、初任者研修の一環として、「ICT を活用した授業づくり」の講座を設けています。

高等学校

インクルーシブ教育の実践 城郷高校の取組み

神奈川県ではインクルーシブ教育を推進するために、令和2年度から14校をインクルーシブ教育実践推進校に指定しています。そのひとつである城郷高校では、教育目標である「敬愛」をめざし、自他を大切にし、ともに学ぶことのできる学校づくりを進めています。誰もが大切にされ、いきいきと暮らせる「共生社会」の実現のために、知的障がいのある生徒が高校で学ぶ機会をひろげ、ともに活動をする中でお互いを認め合って成長していくことをめざしています。城郷高校では、一人ひとりの課題に対応するために、科目により、ティーム・ティーチングを行っています。また、定期的に校内研修を行い、障がいに対する理解を深めながら、生徒の目線に立ち、教室環境の整備、ICT機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化に取り組んでいます。

特別支援学校

教員と看護師の協働連携

神奈川県では、学校で実施するすべての医療的ケアは、教育の一環（自立活動）と位置付けています。医療的ケアとは、一般的に『日常生活に必要とされる医療的な生活援助行為』とされています。その医療的ケアを必要とする子どもたちが神奈川県の特別支援学校にも多く在籍しています。代表的なものには、痰の吸引や経管栄養などがあります。教員も研修を経て認定証を取得し、看護師と連携を図りながら吸引や経管栄養を実施しています。

医療的ケアを必要とすることを、ハンディとしてとらえることなく、その子の大切なパーソナリティ（個性）としてとらえ、その子の持てる力や可能性を最大限に発揮させることをめざしています。また、将来の自立と社会参加のために必要な力を育みます。教育と医療、それぞれの専門性が持つ視点の相違を教員と看護師が共有するためには、互いの専門性を尊重し理解することが大切です。神奈川県では、そのダイナミクスな相互関係から、多角的な視点を持ちながら子どもに寄り添った医療的ケアを提供しています。